

3858 ユビキタス

三原 寛司 (ミハラ カンジ)

株式会社ユビキタス社長

「Navi-Ene HEMS pack」のネット販売を開始

◆予想よりやや低調に推移

平成 26 年 3 月期第 1 四半期は、予想よりやや低調に推移した。当社のビジネスのうち、受託開発は、顧客の都合もあって、上期末もしくは年度末に集中するため、例年、第 1 四半期の業績は低調に推移する傾向にあるが、当期の売上高は、ゲーム向けの減少により 1 億 3 百万円(前年同期比 25.8%減)となっている。この結果、営業損失は 1 億 55 百万円となり、投資有価証券の評価損を計上した関係で、純損失は 1 億 61 百万円となった。なお、ゲーム以外の組込みソフトウェアの売上高は前年同期比 16.3%増となっている。

当社の事業は、前期まで組込みソフトウェア事業のみであったが、新規事業としてサービス事業を開始したため、今期よりセグメント別の業績を開示している。第 1 四半期の売上高は、組込みソフトウェア事業が 1 億 1 百万円、サービス事業が 1 百万円となった。セグメント利益は、組込みソフトウェア事業がマイナス 99 百万円、サービス事業がマイナス 56 百万円となっている。

分野別売上高の概況として、組込みソフトウェア事業のネットワーク分野については、無線 LAN や DLNA(ホームネットワーク)などが堅調に推移したが、ゲーム向けの減少により、54 百万円(前年同期比 33.9%減)となった。データベース分野については、産業機器向けのライセンスが安定傾向にある一方、デジカメの機種減少の影響を受け、10 百万円(同 77.3%減)となった。高速起動分野は 37 百万円(同 212.5%増)となっており、新規案件を含め、複数の車載案件が継続している。サービス事業については、HEMS 向けパッケージ製品の販売を開始し、1 百万円の売上高を計上した。

通期の業績については、新規事業の立ち上げに伴う先行投資を織り込み、赤字を予想している。売上高は 9 億 30 百万円、営業損失は 80 百万円、経常損失は 80 百万円、当期純損失は 80 百万円を計画しており、当初予想を据え置いた。なお、第 1 四半期時点での売上高の進捗率は 11.1%となっており、想定よりも若干遅れている。

◆ゲーム関連が大幅に減少

組込みソフトウェア事業は、自社で研究・開発したソフトウェア(ネットワーク関連、データベース関連、高速起動関連)を機器メーカーやモジュールメーカーに提供し、数量に応じたライセンス収入を得るビジネスである。

分野別の状況として、ネットワーク関連(Network Framework)については、任天堂の携帯ゲーム機(DS)の世代交代により、ゲーム関連が前年同期比で大幅に減少したが、これは当初より想定していた。その他のネットワーク関連としては、無線 LAN、デジタル家電向け、車載向け、白物家電向けなどを展開しており、計画に対して順調に収益を計上している。「Wi-Fi Direct」、「ECHONET Lite」、「DLNA/DTCP-IP」などで新規顧客を獲得しており、具体例としては、パナソニックのデジカメ「LUMIX」に「Wi-Fi Direct」、ダイキン工業のエアコン「うるさら 7」に「ECHONET Lite」が採用された。

資本・業務提携している村田製作所との協業については、Wi-Fi ソリューションパッケージの共同開発が完了し、販売を開始した。また、前期から取り組んでいた大型顧客案件も開発が完了したため、第 2 四半期以降に量産を

開始し、ロイヤルティを獲得する見込みである。

現在、営業案件は好調に増加しつつあるが、リソースの確保と利益率の向上が今後の課題となる。また、中長期的なテーマも含めて村田製作所との協業をさらに推進し、業績の拡大を図っていきたい。

◆高速起動関連がカーナビ各社に浸透

データベース関連(Device SQL)については、コンパクトデジカメ向けのロイヤルティ収益が減速している。スマートフォンの台頭に伴ってコンパクトデジカメの市場が縮小し、採用機種や出荷台数が減少しているため、売上高が前年同期比で大幅に減少した。一方で、OA 機器や産業機器でのロイヤルティ獲得が進んでおり、今後も安定した収益が見込める。今後の取り組みとしては、開発コストを絞りながら、すでに採用されている分野を中心に、着実に売上を確保していきたい。

高速起動関連(Quick Boot)については、車載機器(カーナビ)にフォーカスして販売活動を行っている。当期は新規顧客の獲得も順調に進み、堅調に売上高を確保することができた。国内のカーナビ各社の多数に浸透しており、開発が進行中である。パートナーの拡充としては、富士通コンピュータテクノロジーズとの開発協業を進めており、アットマークテクノとは、中小規模案件向けの販売をスタートした。今後の取り組みとしては、進行中の案件を確実に量産につなげていく。また、対応 CPU プラットフォームの拡大、海外ビジネスの開拓にも力を入れていきたい。

サービス事業では、電力見える化サービス「Navi-Ene」を展開している。4 個口の電源タップからスタートしたが、その後、壁コンセントの計測や分電盤での測定といったニーズに対応した。現在も開発投資は継続中だが、5 月からは、パッケージ商品「Navi-Ene HEMS pack」として一般販売を開始しており、当期にハード販売の売上を計上した。また、消費電力測定に関わる事業者向け案件を受注しており、第 2 四半期の売上計上が予定されている。今後の取り組みとしては、システム OEM 提供の拡大を図っていきたい。

無線 LAN ルータと計測機器をパッケージにした「Navi-Ene HEMS pack」は、アイアンドシークルーズ社のサイト「グリーンエネルギーナビ HEMS」でネット販売を行っている。価格は 10 万 5,000 円だが、HEMS 補助金の対象機器となっているため、8 月 31 日までの申し込み分は実質負担額が 5,000 円となる。

◆質 疑 応 答◆

当期の売上原価が膨らんでいる要因を教えてください。

大きな要因としては、新規事業(サービス事業)の立ち上げに伴って人件費、外注費が増加した。また、ソフトウェアの開発費も増加している。資産性のあるソフトウェアの開発費は、原価ではなく、固定資産のソフトウェア仮勘定に計上されるが、当期は前年同期と比較して資産性のあるソフトウェアの開発が少なく、多くが原価として計上された。

第 2 四半期の利益の見通しを伺いたい。

当期は、ほとんど原価のかからないゲーム向けの組込みソフトウェアの売上高が減少し、粗利率が低下した。また、新規事業への投資も利益を押し下げる要因となった。第 2 四半期については、いくつかの案件で売上の見込みが立っているが、利益は当初の想定通りマイナスで推移する見込みである。

第 2 四半期にゲーム向けの売上計上は予定しているか。

ゲーム向けの売上は、任天堂 DS のロイヤルティのみだが、任天堂が完全に 3DS に移行したため、今後、大き

な売上が発生することはない。

デジカメについては、期初の想定よりもマーケットサイズが縮小していると思うが、通期計画の達成に影響はないのか。

データベース関連のデジカメ向けロイヤリティは想定を下回る見込みだが、新たに無線 LAN が搭載された機種が発売されるため、ネットワーク関連での売上計上が見込める。

村田製作所との協業で進めている Wi-Fi ソリューションパッケージは、携帯機器向けか。

スマートフォンから広がるマーケットとして、村田製作所が取り組んでいる分野(カメラ、車載など)で共同開発を行っている。

第 2 四半期の売上計画には、村田製作所との協業による売上高がどの程度含まれているのか教えてほしい。

売上計上は見込んでいるが、具体的な数字は開示していない。単価は低いが、ある程度の台数は出るとみている。

サービス事業の売上高は、現時点でハード販売のみとなっているが、将来的にはどの程度の規模まで伸びると予想しているのか。

今後はクラウドサービスをベースとして、マンションのデベロッパーなどを対象とした SI ビジネスを展開していく。中期的には、センサーのデータをクラウドに蓄積する「M2M クラウド」分野へ展開を拡大していきたい。エネルギーの見える化だけではなく、電気自動車の走行状態の遠隔監視などについても実証実験を行っており、大きなビジネスに育てていきたいと考えている。収益面では、平成 27 年 3 月期の収支均衡、平成 28 年 3 月期の黒字化を目指す。

「Navi-Eno HEMS pack」について、補助金の状況、販売台数を伺いたい。

HEMS 補助金については、8 月 31 日まで 10 万円、その後は 2014 年 1 月まで 7 万円になることが決まっている。2 月以降の実施については、まだ発表されていないが、当社では補助金がなくなことを想定しており、補助金が出る間に販売台数を伸ばしたいと考えている。なお、販売台数は開示していないが、サイト内で最も売れている製品であり、8 月 31 日までは駆け込み需要もあつて、順調に伸びるとみている。

(平成 25 年 8 月 15 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見るができます。

http://www.ubiquitous.co.jp/ir/library_4.html